

令和3年度 山梨県立甲府城西高等学校 学校評価報告書

学校目標・経営方針	何事にも主体的に取り組み、創造する力と豊かな人間性を身につけ、社会に貢献する生徒を育成する。	
本年度の重点目標	1 主体的に学び続ける力を育む。(豊かな学力の育成)	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 創造力を高める思考力・判断力・表現力を育む。(豊かな心の育成)	B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 心身を鍛え、豊かな人間性を育む。(健やかな体の育成・特別支援教育の推進)	C 不十分である。(4割以上)
	4 規範意識を高め、社会性を育む。	D 達成できなかった。(4割以下)
	5 社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む。(地域や世界で活躍できる人材の育成)	

山梨県立甲府城西高等学校校長 小俣 宏昭

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自己評価								
番号	評価項目	本年度の重点目標	具体的方策	方策の評価指標	年度末評価(2月14日現在)			
					自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	主体的に学び続ける力を育む (豊かな学力の育成)		①学習指導の工夫・改善に努め、自ら学び、考える力を育む。	理解度に応じた指導の充実、相互授業参観の活性化	「学習指導の工夫改善」 →評価A24.1%、評価B58.1%	B	教員同士が授業観察を行い、学習指導の改善に努めた。生徒の理解度に応じた指導の工夫し、主体性を高める。 教員横断的な組織的取組をすすめ、教職員一人ひとりが授業改善に努める。 体験的な学習は学習計画の中に根付いている。さらに興味・関心を高め、学ぶ力を育む内容を継続する。 生徒、教職員ともにABの評価を合わせると80%を超える結果となり、目的意識を持って学校生活を送っている。今後も学校全体での取り組みを行う。	
			②授業を通して4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)を育む。	各教科の授業改善による4つの力の向上	「授業を通して4つの力の育成」 →評価A22.5%、評価B55.2%			
			③体験的な学習を重視し、興味・関心・意欲を高め、学び続ける力を育む。	産・社・総探等における体験的学習の充実	「体験的な学習の重視」 →評価A26.9%、評価B51.1%			
			④目的意識を持って行動する態度を育む。	目標をたて、主体的な取組を行うための振り返りを徹底	「目的意識をもって行動する態度の育成」 →評価A24.6%、評価B56.2%			
2	創造力を高める思考力・判断力・表現力を育む (豊かな心の育成)		①全ての教育活動において指導の狙いを明確にし、「主体的・対話的で、深い学び」の実現に努める。	授業改善のための授業目標の提示と生徒の自己評価の実施、指導時のICT機器の活用	「主体的・対話的で深い学び」 →評価A24.0%、評価B56.2%	B	「授業でのICT機器の活用」、「授業目標提示と振り返り」を行い、知識の定着を図った。新型コロナウイルスの影響で対話的な学びは十分ではなかった。 生徒の理解度は高くないが、授業の振り返りや、授業目標の提示と振り返りにより、意欲も向上した。生徒の自己評価も向上した。授業の振り返りや、授業目標の提示と振り返りにより、意欲も向上した。生徒の自己評価も向上した。	
			②資格取得を奨励し、専門性の高い実践力を育む。	系列別授業の充実、系列科目の積み上げによる資格取得の推進	「系列の特色を生かした授業」 →評価A27.6%、評価B56.2%			「資格取得の奨励」 →評価A33.6%、評価B50.1%
			③基礎的・基本的な知識や技能を身につけさせ、進路実現に結びつける。	実力診断テストの活用、課外の充実、ICTを活用した学習習慣の確立	「ICT活用で学習習慣の確立」 →評価A19.3%、評価B34.9%			「実力診断テストの活用」 →評価A20.8%、評価B47.4%
3	心身を鍛え、豊かな人間性を育む (健やかな体の育成・特別支援教育の推進)		①自己を正しく理解し、在り方・生き方について考えさせる取り組みを実践する。	自己理解、生き方・在り方を考える機会の充実	「LHRや外部講師の講義の効果」 →評価A24.5%、評価B51.3%	B	外部講師より強め、「地域を知る」学習内容の充実を図る。 生徒のA評価が高く、意欲が高い。部活動は技術のみならず人間性を育み、人間関係を向上させる。学校の活性化策が学校全体で取り組む。 LHRでの実施は一定の評価が得られた。心を育ていじめを未然防止するために、今後は毎日のSHRでも意識して行い、学校全体で支持的な醸成を図っていく。	
			②部活動を通して心身の健康や健全な人間関係を築く力を育むと共に外部指導者を活用し、顧問の負担を軽減する。	部活動における技術技能の向上・人間性の育成	「部活動での健康や人間関係力の育成」 →評価A34.5%、評価B43.3%			
			③教育活動全体を通して、道德教育の充実を努める。	LHRでの計画的な道德教育の実践、いじめ未然防止の徹底し、生徒の品格を育む。	「LHRでの道德教育の実施」 →評価A19.7%、評価B47.5%			
4	規範意識を高め、社会性を育む		①基本的な生活習慣を確立させる。	遅刻指導、あいさつ運動の充実	「遅刻指導などの充実」 →評価A30.1%、評価B53.6%	B	始業5分前の遅刻指導の生徒の評価が高い。朝SHRでの指導が十分に行われた。今後も継続指導を行う。 生徒・保護者の最も評価は高くなっている。教職員もそれらについてさらに指導が必要と考え、生徒の更なる成長に期待しているところがある。	
			②社会人として必要なルール(規則)やマナー(礼儀)を身につけさせる。	服装髪型指導の徹底、自転車やバイクなどの交通マナー指導の充実	「服装・髪型指導の徹底」 →評価A41.2%、評価B46.4%			「交通マナー指導の充実」 →評価A31.2%、評価B48.6%
5	社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む (地域や世界で活躍できる人材の育成)		①NIEを活用して社会の情勢を知り、自らの意見をもつことができるようになる。	授業やHRなどでの新聞の活用	「授業やHRでの新聞活用」 →評価A20.5%、評価B42.9%	B	生徒自らが考え、自分の意見を持つ活動ができ、新聞に意見を投稿する機会が増えている。さらに継続指導する。 山梨の産業や文化を題材とした外部との連携をきめた総合学科の特色を生かしたキャリア教育が行われている。更に内容の充実を図る。 芸術鑑賞会の実施や、系列授業での文芸部・美術部見学を通して生徒の豊かな心を育んだ。また、関西・広島方面への修学旅行も実施することができ、日本の伝統や文化を学ぶことができた。さらに発展的に学習する機会を設け、理解を深めさせる。	
			②キャリア教育の充実を図り、個々の進路に向けての意識づけを行う。	総探やLHRなどでの進路意識を高める指導の充実	「インターンシップ等の充実」 →評価A29.8%、評価B48.1%			「産・社・LHRの効果」 →評価A27.4%、評価B49.0%
			③文化・伝統・芸術に触れ、豊かで健全な情操を育む。	芸術鑑賞会や美術館見学などの機会の確保	「文化・伝統・芸術に触れ、情操を育む」 →評価A26.5%、評価B47.4%			

学校関係者評価		
実施日(令和4年3月3日)		
評価	意見・要望等	
3	・実際の授業内容等はよくわかりませんが、生徒、保護者、先生の評価を見ると、近年のコロナ禍において先生方の授業に対する創意工夫、努力が感じ取れます。これからも生徒のための努力を惜しまないでください。 ・すべて共通するが、コロナ禍で非常に多くの苦労があったと思われるが、そのような中で例年通りの満足度を達成している点は素晴らしいと思う。多くの項目で、生徒、保護者、教師の認識が近いと思われるが、生徒と保護者、教師との認識が異なる項目がある。生徒のほうは、達成できたと感じている一方で、教師・保護者がほぼ達成できたと感じている項目があるため、認識のすり合わせの機会があれば、よりよい教育が行えるのではないかとと思う。 ・この項目で求められていることは、先生方が一方的に指導方法を押し付けて達成されたのではないかと考えます。相互で理解し合いたいと達成できないことなので、生徒からの達成度が高いということは、自ら主体的に学習に取り組みやすい環境づくりや、モチベーションの向上に向けて、生徒と先生方が同じベクトルを向いていたということ、とてもいいことだと思います。ただ、全ての生徒が、この方策に対する理解や、行動に繋がっているということではないので、高い達成率を維持するためにも、先生方にはこれからも、生徒一人ひとりに対して、細かい配りやご尽力をいただきたいと思えます。	
	・卒業後、各企業に就職した場合、関連資格は業務を遂行する上で必須となり社内資格、収入面に直接影響して来ます。社会に於いての資格取得の重要性を理解させ、基本的な資格は在学中に取得する方が要です。 ・授業の目標が明確になっていれば、学習後の生徒自身の達成感や自己評価にもつながりやすいと考えられるので、次善な目標であり、大切な評価項目であると思えます。目標設定はとも考えたいと思いますが、達成できなかった生徒や自己肯定感の低い生徒が、達成するために何が必要だったのかと振り返ることができ、それが今後の課題になると思います。また、資格取得が目的(ゴール)ではなく、進学・就職に向けて、資格取得後にもどのような人材になれるかや、社会貢献や現場での戦力になれるかといった、具体的な結果や可能性が明確になっていると、生徒の達成感や向上心に繋がると考えますので、そういった工夫もあっていいのではないかと。保護者からの回答がわからないが目立つ項目でもある。保護者との認識すり合わせが必要だと思われる。	
	・部活動を通して社会貢献することは非常に重要なことだと思います。城西高校は体育系の部活も活発ですが、K通信を見ますと定期的に清掃活動を行ったして地域貢献型の社会貢献活動はとても素晴らしいと思います。また、野球部では地区のスポーツの指導を定期的に行っているとのこと、これからも他の部活で地域との輪を深めることを希望します。 ・自己の在り方や生き方を考えるために必要な取り組み、LHRや外部講師の講話を通して考えることが出来たと、生徒の評価からわかります。これからも続けていきたいと思います。さらには、部活動を通して、人間性の育成を育む取り組みも高い評価でよかったと思います。クラス単位ではなく、クラス単位でもこのような評価が分かれば、部活動をしていない生徒についても、取組みが行われたことが明確になっていいと思います。 ・教師と生徒の認識にずれが見られる項目でもある。この資料を基にLHRで話し合う等の機会があるといいのではと思う。	
3	・LHR等で社会人として必要な一般社会規範を指導することはとても大切なことだと思います。これからは社会に出て必要となる指導には力を入れていただきたいと思えます。 ・基本的な生活習慣の確立を促すことで、生徒個々の意識が上がることはとてもいいことだと思いますが、家庭との連携も必要になってくると思います。保護者の理解をより一層深めることが今後重要になってくると思います。バイクの事故が減っていないことが気になりますので、他者に迷惑を掛けないという思いを持ってもらい、交通マナーの向上に努めていただきたいと思えます。 ・教師と生徒の認識にずれが見られる項目でもある。この資料を基にHRで話し合う等の機会があるといいのではと思う。	
	・非常に重要な内容だと思います。最近の社会情勢は目まぐるしく変わっていますが、新聞を有効に活用して指導していただきたいと思えます。 ・コロナ禍の影響で、校外学習の機会が減っていると思えますが、逆にこのような時代に合った社会学習を生徒に考える機会を与えて、地域などと一緒に進めることが出来たらいいと思います。この項目も保護者の理解が少ないように感じられますので、生徒が家庭で話してできるような活動ができたらさらによいと考えますので、よろしくお願いいたします。 ・と同様に、多くの項目で、生徒、保護者、教師の認識が近いと思われるが、生徒と保護者、教師との認識が異なる項目がある。生徒のほうは、達成できたと感じている一方で、教師・保護者がほぼ達成できたと感じている項目があるため、認識のすり合わせの機会があれば、よりよい教育が行えるのではないかとと思う。	

※(1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。